



2013年7月16日、新棟オープン

1F 腎・透析センター

※イラストは全て建築予定段階のものであり、施工上の理由などにより変更となる場合があります。

小張総合病院

臨床工学科

この度平成25年7月に小張総合病院の新棟が開院致します。新棟では1Fが腎・透析センターとなり、腎不全の患者様のための透析の治療はこちらで行うこととなります。

それに伴い現在の透析のベッド数も20床から48床へ拡大を行い、また治療に用いる透析機器も最新の透析装置を導入致します。



オンライン透析実施イメージ

■最新の透析機器を導入

それによって可能となるのが透析治療におけるオンライン化とシステム化です。



オンライン化では、従来でのHDF（血液透析濾過療法）という治療で外部からの補液を行っていたものを、内部から無菌的に調製された透析液を補液として用いることで、従来よりも多くの補液を行うことができ、優れた臨床効果が上げられるとしています。オンラインHDFは人の腎臓の働きにより近づいた血液浄化法で、腎性貧血・透析アミロイドーシス・皮膚搔痒症・透析困難症の改善など透析を行う上での合併症を防ぐ効果が期待されます。

オンラインHDFを行うにあたっては、より厳密な水質管理や無菌的な透析液の維持が求められます。そのためには定期的な水質検査や透析液ラインの従来の薬液での消毒方法に加え、熱水での消毒を行うことにより透析液の清浄化を維持していきます。熱水での消毒は、それに対応した透析機器でなくてはならないため今回

導入を行うことになりました。

近年、透析医療においては安全かつ清潔な透析液を提供することの重要性が求められているため、当院でも透析清浄化のために透析機器安全管理委員会を設置し、よりよい透析液を提供するための取組みを行っています。

■新コンピューターシステムで効率性アップ

次にシステム化ですが、病院内の電子カルテと透析支援システムというソフトウェアを連動することにより、透析前に患者様が体重計に乗られると機械側で適切な除水量を計算して、各ベッドサイドの透析装置へ自動的に送られます。スタッフはそれをもとに当日の透析条件を確認できるので、確実な伝達によりヒューマンエラーの防止に繋がります。また各ベッドサイドの透析装置をシステムとして繋ぐことにより、スタッフは透析中のモニタリングや透析室全体の状況把握がしやすくなり、業務効率の向上が期待されます。

もちろん全て機械任せというわけではなく、必ず透析スタッフである看護師や臨床工学技士が確認を行うことで透析治療における安全性を高めていきます。

■より安全で快適な透析治療へ

最新の透析装置とはいえる定期的な点検やメンテナンスは必要不可欠なため、それは臨床工学技士が行います。透析装置メーカーのメンテナンス講習へ参加し、臨床の現場での透析機器のトラブルに対する対応や、透析装置内の定期消耗部品の交換などを行っています。また清潔な透析液を作製する際の水質検査や、透析液ラインの清浄化への取組みも当院では臨床工学技士が行っています。

新棟開院にあたり透析室スタッフはより安全で快適な透析治療を心掛けていきますのでどうぞ宜しくお願い致します。

急募!!

新棟開院に伴い、助産師、看護師、准看護師、看護助手、薬剤師 他、医療スタッフを随時募集しています。委細面談は、小張総合病院・総務課までお願いします。



医療法人社団 圭春会
小張総合病院 / 小張総合クリニック

〒278-8501 野田市横内29-1 ☎ 04-7124-6666(代表)
✉ kgh@kobari.or.jp ☎ http://www.kobari.or.jp/